



TITLE:

皮膚癌

AUTHOR(S):

鳥潟, 隆三; 仲田, 實三郎

---

CITATION:

鳥潟, 隆三 ...[et al]. 皮膚癌. 日本外科宝函 1932, 9(4): 906-911

ISSUE DATE:

1932-07-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/201793>

RIGHT:

## 臨 床 講 義

### 皮 膚 癌

#### Hautkrebs

(昭和7年5月16日講義)

教授 醫學博士 鳥 潟 隆 三 講 述

助手 醫 學 士 仲 田 實 三 郎 筆 記

患者 第1 前〇す〇 56歳 ♀

遺傳的關係及既往症 特ニ述ブベキモノハアリマセン。

現病歴 約8年前ニ右ノ鼻唇溝ノ所ニ小サイ母斑ガアツタノヲ自分デ搔キムシツテ居リマシタ所ガ、之ガ潰瘍トナリ、段々大キクナリ、最近1年ノ間ニ約2倍大トナリ、潰瘍ハ周圍ノミナラズ深部ニモ進行シ、遂ニ口腔ト交通スル様ニナリマシタ、初カラ疼痛ハアリマセン。

(以上醫員朗讀)

教授「オ聞キノ通りデスガ診マスト何ガアリマスカ」

學生「右ノ上顎骨ノアル所ニ一ツノ大キイ物質缺損ガアリマス」

教授「其ノ境界ハ……………」

學生「ソノ上界ハ右下眼瞼、内ハ鼻背ノ中央、外ハ右外眼角ノ線、下ハ鼻唇溝迄デアリマス」

教授「ソノ他目立ツ事ハ……………」

學生「硬口蓋ハ穿孔シ舌ガ露出シテ居リマス」

教授「ソシテ潰瘍全體ノ形ハ不規則デアリマス、治癒スル傾向ガアリマスカ」

學生「アリマセン」

教授「ドウシテ治癒ノ傾向ノ無イコトガ判リマスカ」

學生「……………」

教授「治癒ノ傾向ガアレバソノ部分デ健康部ニ對シテ潰瘍ハ凹形トナリ、ソノ著明ノモノハ腎臟形或ハ半月形ヲ呈シマス。然ルニ本患者デハ反對ニ潰瘍面ハ健康部ニ對シ凡テ凸形ヲ示シテオリマスカラ治癒傾向ハナイト云ツテヨイノデアリマス。尙又健康ナル表皮細胞新生即チ Epithelisation ノ徴候ガアリマスカ」

學生「アリマセン」

教授「左様、表皮細胞新生ノ徴候ガアレバ灰白色ノ邊緣 (Saum) ガ健康部カラ肉芽面上へ續イテ居マス。ソノ他特異ナ事ハ………」

學生「健康部ニ移行スル周邊ハ堤防狀ニ高マツテ居マス。ソシテ肉芽組織ノ表面ハ大小不同デ棒針頭大カラ米粒大ノ顆粒ガアリ、粗糙ニ見エマス」

教授「Ganz richtig! (全クソウデス) ソシテ此ノ所見ガモットハツキリスルト花甘藍狀 (Blumen-kohlartig) トナリマス、且ツ此ノ病的肉芽ハ部分的ニ汚穢灰白色ノ苔デ被ハレテ居マス。

口腔ノ方カラ視マスト硬口蓋ハ穿孔サレ外カラ見タト同様ニ大小不同ノ肉芽組織ガアリマス。次ニ觸診ニ移リマスト………」

學生「潰瘍ト健康部トノ境ハ多少温度ノ上昇ガアリマス」

教授「硬度ハ………」

學生「彈力性硬」

教授「左様、局所ノ淋巴腺ヲ觸レマスト………」

學生「何處ニモ觸レマセン」

教授「以上ノ所見カラシテ直接診斷 (direkte Diagnose) ヲツケルコトガ出來マス。即チコレハ新生物 (Neoplasma) ト考ヘラレマス。ソシテ骨組織デモ軟部組織デモ道ニ當ル一切ノ組織ヲ破壊シテ無制限ニ (schränkenlos) 蔓延シテ行ク傾向ガアリマス。之ハ惡性 (Bösartigkeit) ノーツノ重要ナ症候デ從ツテ此ノ疾患ハ惡性腫瘍デアルト診斷セネバナリマセン。

鑑別スルモノニハ梅毒性潰瘍 (Ulcus Syphiliticum) ガアリマスガ、此ノ場合ニハ何處カニ治癒ノ傾向ガアリマス。結核性ノ場合ニハ潰瘍面ノ肉芽ガ周縁ニ於テ別ニ堤防狀ニ高マツテオル事ハナク潜坑 (unterminieren) シテ居マス。癰ノ場合ニハ知覺異常ガアリマス。

此ノ患者ニハ之等ノ症狀ハアリマセン。即チ此ノ患者ノハ蠶蝕性潰瘍 (Ulcus rodens s. exedens) デアリマス。此ノ最初ハ小ナル上皮細胞カラ出テ來ルモノデスカラ Ulcus cancrorum rodens s. exedens トモ名ヅケラレマス、之ハ癌腫ノ1種デアリマス」

患者 第2 小○よ○ 43歳 ♀

既往症 4歳ノ頃左顳顬部ニ濕疹様ノモノヲ生ジ、ソノ部分ガ癩痕性ニ治癒シ禿頭トナツタノデ常ニ「カツラ」 (Perrücke) ヲツケテ居タ。

現病歴 昨年ノ1月頃カラソノ禿頭部ガ誘因ナク、段々ト膨隆シ自然ニ潰瘍トナリマシタ。

疼痛モ何モアリマセン。(以上醫員朗讀)

教授「診マスト何ガアリマスカ」

學生「左顳顬部ニーツノ潰瘍ガアリマス」

教授「潰瘍トハ何デアリマスカ？」

學生「物質缺損デス」

教授「ソレ丈デハ答ガ不完全デアリマス。完全ナル Antwort ハ『潰瘍トハ肉芽組織ヲ以テ補ハレタ表皮ノ缺損』デアリマス。換言スレバ物質缺損ガアリ、之ガ肉芽組織ヲ以テ被ハレテ居ルデアリマス。サテマタ肉芽組織トハ何デアリマスカ？」

學生「若イ結締組織細胞ノ増殖シタモノデアリマス」

教授「左様、ソノ中ニ毛細管モ増殖シテ來マス」

然ラバ此ノ潰瘍ノ大サ及ビ形ハ……………」

學生「略々4種ノ直徑ヲ持ツタ略々圓形ノ潰瘍デアリマス」

教授「健康部ヘ移行スル所ハ……………、或ハ周圍カラハ……………」

學生「……………」

教授「高マツテオリマス、或ハ堤防狀デアリマス (erhohen od. aufgeworfen od. wallartig)。ソシテ肉芽組織ハ健康デハナク病的ノモノデアリマス。健康肉芽ト病的肉芽トノ區別ハ……………」

教授「健康ノモノデアレバソノ色ガ一般ニ平等ニ薔薇紅色 (rosarot) 或ハ深紅色デアリマシテ、灰白色、暗赤色或ハ出血性デアルト云フ様ニ一般ニ色ノ變ツタ所ハアリマセン、又顆粒モ微細デ平等デアリマス。

此ノ患部ヲ診マスト表面ハ不規則デ或ルモノハ棒針頭大或ルモノハ示指頭大デ形モ色々デアリマス。今一ツノ或ル部分ハ出血性デ或ル所ハ深く凹ンデ居リマス。之等ノ所見ヨリシテ此ノ肉芽ハ病的肉芽組織ト診斷セネバナリマセヌ。

觸診シマスト……………」

學生「特別ノ温度ノ上昇ハアリマセン」

教授「周圍カラ堤防狀ニ高ツテオル所ノ硬サハ……………」

學生「弾力性硬」

教授「左様、ソレデ壓ヲ加ヘテモ壓窩 (Delle) ハ残りマセン。ソノ他急性炎症ノ症狀ハアリマセン。併シ多少壓痛ヲ訴ヘマス。更ニ注意スベキ事ハ此ノ部分ヲツミ双方ノ指ノ間デ壓シマスト病的肉芽組織ノ表面カラ乳汁様ノ液ガ點滴狀ニ出マス。之ガ癌腫乳 (Carcinom-milch) デアリマス。

基底部 (Unterlage) トハドウナツテ居リマスカ」

學生「動キマセン」

教授「左様、移動シマセン。咀嚼運動ガ妨ゲラレテオルカドウカヲ診テミマセウ。口ヲ

開カセルト潰瘍ノスグ下デ筋肉 (M. temporalis) ノ動クノガ判リマス、故ニ此ノ潰瘍ハ顳顬咬筋筋膜ニハ達シテオリ得ルガ、併シ其下ノ筋肉ニハ達シテ居ナイト考ヘラレマス。

次ニ局所ノ淋巴腺ハ觸レマスカ<sup>1</sup>

學生<sup>1</sup> 顎下淋巴腺、後耳淋巴腺ハ觸レマセン<sup>1</sup>

教授<sup>1</sup> 左様、胸鎖乳頭筋ノ起始部ノ近クニーツノ淋巴腺ヲフレマスガ、大サ硬サニハ變化アリマセン。ソノ他何處ニモ淋巴腺ノ腫脹ハ證明サレマセン。

以上ノ様ナ所見カラドンナ診斷ニ歸着致シマスカ<sup>1</sup>

學生<sup>1</sup> 癌腫デス<sup>1</sup>

教授<sup>1</sup> 左様、而モ表皮癌 (Kankroid) ニ相違アリマセン。<sup>1</sup>

諸君！癌腫ニドノ様ナ種類ガアリマスカ<sup>1</sup>

學生<sup>1</sup> 蠶蝕性潰瘍<sup>1</sup>

教授<sup>1</sup> 左様、此ノモノハ一ツノ潰瘍デアリマシテ、普通アマリ大キクハナリマセン、且癌珠 (Kankroid-perlen) ヲツクラズ、割合ニ慢性ノ経過ヲ取りマス、即チ之ハ一ツノ癌腫デアリマスガ癌細胞ハ多ク破壊スル傾向ガ強ク其ノ代リニ結締織ノ増殖ガ強クナリマス、又轉移ハ作りマセン。ソノ他ドノ様ナ癌ノ種類ガアリマスカ<sup>1</sup>

學生<sup>1</sup> 表皮癌 (Kankroid) ガアリマス<sup>1</sup>

教授<sup>1</sup> 左様、此ノモノハ癌珠 (Kankroid-perlen) ヲツクル事ガ特有デ又壓ニヨリテ癌腫乳ヲ出シマス。破壊スル傾向ハ少イケレドモ轉移ヲ來シマス。ソノ他ニハ…………<sup>1</sup>

學生<sup>1</sup> ………<sup>1</sup>

教授<sup>1</sup> 基底細胞癌 (Basalzellenkrebs) ガアリマス。特有ナ事ハ癌細胞間ニ淋巴腔間隙ヲ形成シ、從ツテ海綿様ニ壓縮性ガアリ、一旦潰瘍面ヲ生ズルト淋巴漏ガ強クナリ、経過ハ割合ニ長ク轉移ハ作りマセン。癌腫デナイ潰瘍ニハドノ様ナモノガアリマスカ<sup>1</sup>

學生<sup>1</sup> ………<sup>1</sup>

教授<sup>1</sup> 蛇行性潰瘍 (Ulcus serpens) ガアリマス。ソノ他深部ヲ犯スモノデ、例ヘバ陰莖龜頭ナドーヨク來ルモノニ枝蝕性潰瘍 (Ulcus phagedaenicum) ト云フノガアリマス、併シ之等ハ癌腫性潰瘍トハ別ノモノデアリマス。ソウシマスト最後ニ癌腫性潰瘍 (Karzinom-geschwür) ニ特有ナ事ヲ列舉シテ御覽ナサイ<sup>1</sup>

學生<sup>1</sup> 第1. 病變ノアル所ハ健康部ニ對シテ凸形ヲ呈シ、治癒ノ傾向ノナイ事。

第2. 周圍ガ皮膚水平面ヨリ堤防狀ニ高ツテオル事。

第3. 潰瘍ヲ形成シテ居ル肉芽ガ大小不同デ且ツ潰瘍ノ表面ガ凹凸不正ノ事、又壞疽ヤ出血部ヲ示ス事。

第4. 指壓ニヨリ癌腫乳ヲ出ス事。

第5. 硬サガ特有ナル事。

第6. 轉移ノアル事<sup>1</sup>

教授<sup>1</sup> 全クソウデス、ソレデハ處置ハドウシマスカ<sup>1</sup>。

學生<sup>1</sup> .....<sup>1</sup>

教授<sup>1</sup> 第1ノ患者ハ先ヅ Bovie 氏ノ高周波電氣デ焼切ツテ肉芽組織ノ奇麗ニナルヲ待ツテ有莖皮膚瓣ノ移殖ヲ行ヒ缺損部ニ整形手術ヲ施シマス。

第2ノ患者ハ周圍カラ此ノ部分ヲ切リトツテ更ニ顳顬咬筋筋膜ヲモ切り取り筋肉ヲ露出セシメ、引續キ直チニ筋肉上ニ Thiersch 氏ノ方法ニヨリ皮膚移殖ヲ行ヒマス。從來ハ肉芽組織ガ出來ルヲ待ツテ然ル後ニ移殖術ヲ行ツタノデアリマスガ、ソナナ必要ハ少シモナイバカリデハナク、直チニ移殖スル方ガ無菌的デ却ツテ好結果ヲ得ルノデアリマス<sup>1</sup>

第 1 圖

患者 第1例 前〇氏

Ulcus rodens permagnum.

手術前



第 2 圖

患者 第1例

手術後第50日目



第 3 圖

患者 第1例 頰部ノ皮膚ヲ疎轉シ頰部成形術 (Mcloplastik) ヲ行フ、術後6日目癒合確實



第 4 圖

患者 第2例 小島氏 皮膚癌 手術前



第 5 圖

患者 第2例 皮膚癌 術後 第26日  
皮膚瓣ハヨク癒合セリ



**組織標本** 患者第1例ハ定型的ノ Skirrhous ニシテ結締織多ク腫瘍細胞ハ紡錘狀ニシテ不規則ニ群生シ、一見肉腫ナルカノ如シ、Karzinomperlen ハナシ。

患者第2例ハ定型的ノ Kankroid ニシテ上皮細胞ハ大小不同甚シク、且酸性色素ニ着色セラレ易キ角化上皮細胞ノ Perlen 様集團ヲ所在ニ散見ス。

**後記** 第2例表皮癌ニテハ術後40日目ニ以前ノ潰瘍アリシ部ノ下縁ニ近ク、豌豆大ノ硬結ヲ見出シタルヲ以テ直チニ切除鏡檢セルニ Karzinom 結節ナル事ヲ證セリ。配下淋巴腺内ニ轉移 (Metastase) ヲ證セズシテ、原病竈ニ接觸シテ單獨孤立ノ結節ヲ發生シタルハ全ク島潟教授ノ所謂 Parastase ナリ。

悪性腫瘍特ニ癌腫ノ進行ニハ下ノ四ツノ途アリ。Parastase ハ其ノ一ツナリ。

- |             |   |  |
|-------------|---|--|
| 悪性腫瘍ノ進行及ビ増生 | { | 1. per continuitatem (連續的ニ周圍ニ進行ス)  |
|             |   | 2. per metastasis (轉移)    {a) haematogen<br>b) lymphogen                             |
|             |   | 3. per contignitatem<br>原病竈ニ接觸シ淋巴間隙ニ於テ發生ス。是即チ Parastasis ナリ。Panzerkrebs ハ此ノ如クニシテ發生ス。 |
|             |   | 4. per disseminationem    體腔腸管腔等ニ播種性ニ發生ス。  |